

OSR 今昔物語

創立50年を振りかえり 未来への展望を語る

今年、創立50年を迎えるOSR(大阪府社交飲食生活衛生同業組合)。創立当初から現在を知る、6名の役員の皆さんにお集まりいただき、当時の思いやこれからの展望について、じっくりお話をお伺いしました。

参 加 者

理 事 長	福長 徳治	副理事長	増田 正成
副理事長	山名 和枝	副理事長	深沢 亨
副理事長	大西 睦子	副理事長兼 専務理事	東司丘興一
		司 会	織田 高央

司会 織田

OSRは、1967(昭和42)年10月23日、キャバレー「メトロ」で盛大な結成総会をあげ、全国で18番目の全国社交業環境衛生同業組合連合会の組合として発足しました。今年、創立50周年を迎えるにあたり、皆さんの思い出などがあれば教えてください。

福長理事長

生まれて初めて、大都会の大阪のネオンの輝きを見た若いとき、満点の星空を見上げるようで感動したのを覚えています。希

望を持って生きてきた時代なので、ワクワクドキドキしながら毎日過ごしていた時代ですからね。お金を使い果たしてスツカラカンになっても、また稼いだらいいと思いながら遊んでました(笑)。

大西副理事長

OSRというのは、キャバレーとかクラブ、バーをやつてる皆さんが主体となって支えてきたんです。キャバレー「ミス大阪」社長の竹田さん(第三代理事長・竹田榮夫氏)が、当時のOSR理事長でしたけれど、その竹田

さんに「大西さん、ちょっと手伝うてや」とよく言われてたんですが、私は飲食店しかしてこなかったわけですから、ちょっと場違いだなと思ってたんです。でも、理事長になりになった福長さんに頼まれたときには、理事会に入ることを決めました。福長さんもお寿司屋さんを経営されているので、私と同じだと思って、それでお手伝いさせてもらうことに決めました。それなら、皆さん、苦労人ばかりで、とつてもいい方ばかり。ここに入つて本当によかつたと思います。ツーと言えばカーの関係で、心遣いもいただいて感謝しております。

山名副理事長

私はこれまで、北新地一筋でしたから、ミナミの皆さんとこれだけ親しくさせていた



福長徳治理事長

だけのことは嬉しいことですし、これもひと降、OSRに所属したんですが、福長さんが理事長になって、OSRも大きく様変わりしました。一番変わった点と言えば、一言でいうと「自分にやる気が出た」ということです(笑)。それまで、チョココンと座つて、お茶飲んで帰つただけだったんですが、まるで機関車みたいな人が理事長になって、みんなを引っ張ってくれる。当社は、「アンタ業界違

うやん！アンタお寿司屋さんやん」と思つてたんですよ(笑)。「やる気が出た」というのは、今の若い人たちも、同じ気持ちだと思います。

増田副理事長

私はこの中で、一番古いと思いますが(笑)：ただ役をしてなかつたんです。キャバレーが一番忙しい時期に、矢追さん(初代理事長・矢追宗次氏)が、キャバレーを集めてグループをつくつたのが最初です。私は、1962(昭和37)年から、キャバレー「メトロ」のすぐ横で喫茶店をまかされてやつてました。先ほどもお話ししましたが、その頃の「富士」や「メトロ」などのキャバレーは、夕方の5時には店の前に人が列をつくつて並んでいたくらい、もの凄く流行っていましたね。

福長理事長

その頃の「メトロ」は本当に凄かつた。千年町と宗右衛門町の間に、ビール瓶が山積みになっていたのを憶えています。店の中に置くスペースがなくなるほど、お客さんが多かつたんですね。ちよつと話が逸れますけど、「サンローラン」というキャバレーがありましたね。正門があつて、オーナーにチョッと見てくださいといわれたので見たら、門の側に枝振





係であったように思います。これはこれ、世の中、人のためになつていゝるんやなと思ひました。

増田副理事長

昭和30年代は、一番賑やかだった頃で、「宗右衛門町でお店を出せるとなれば最高」といわれるほどでした。私も1964(昭和45)年、日本万博が開催された年に、小さな7坪のスナックを始めました。当時、よく「メトロ」の皆さんに助けていただきました。ダンサーもたくさんいましたし、ボーイさんもバンドマンもいましたから、皆さんによくご来店いただきました。そのときのOSRは、キャバレーオーナーの集まりでしたが、その幹部のひとり「本部以外に組合をつくらう」ということでできたのが、現在の「南料飲協会」の基になる「南パー組合」です。初代組合長の東組合長が、一人ママさん、一人マスタでやつてるような小さなお店を中心に声をかけて組織を立ち上げました。当時のメンバーは380人くらいでした。今では150〜160人になってますけどね。

司会 織田

創設から25年間、理事長を務められた矢追さんから、1992(平成4)年、第二代理



山名和枝副理事長

ところに気を使っていた人で、パーティの席順にまで細かい人でした。

司会 織田

1983(昭和58)年、第9回全国大会が大阪で開かれました。全国から同業者が集まり、初めての大阪での開催ということで大いに盛り上がったようですが、その時はいかがでしたか？

福長理事長

食べるものがあまりなかったといわれたのを憶えています。後からかなり追加したらいいんですけどね(笑)。

東司丘副理事長

たしかに、そのときの全国大会はあまり評判がよくなかったですね。「あかんかったな。今度はちゃんとやってみよう」とよくいわれました。



深沢亨副理事長

事長に岡田一男さんがなられて、翌年には、岡田理事長が全国の会長にもなられました。その当時の雰囲気はいかがでしたか。

福長理事長

あるとき、岡田さんとお話したい件があつて、時間を取ってくれと頼んだら、「5分間やったら話してもいい」といわれたんです。「たった5分やったら話したいことも話せないから帰ります」と返したところ、「ちょっと待ち、分かった、じっくり話そう」というて、話に応じてくれたんです。それで気がついたら3時間、それも本題に入る前(笑)。そのとき、いろんな話をさせていただいて、とても近い存在に感じました。

山名副理事長

岡田会長は、常に企業的にものを考える人でした。それに、非常に神経質。あらゆる

できました。

東司丘副理事長

会員店のプロフェッショナルが接待するわけですから、会場は豪華でしたね。これまでも、北新地パーティをやっておりましたから、その経験が功を奏したのだと思います。

司会 織田

50年を節目にして、この先、これは引き継いでほしいなと思うことやアドバイスなどあれば教えてください。

増田副理事長

これだけ不況が続くと、最近、勧誘に行っても「そんなことやつてる暇も余裕もないです」といわれることが多くなってきました。なかなか、入会してもらえない状況が続いてるうえ、後継者が育っていない状態であることも感じています。



大西睦子副理事長



増田正成副理事長

大西副理事長

私たち、ここにいらつしやるような人たちは、お付き合いで入会しておかないといけません。考えてみますが、今、増田さんがおっしゃったように、利益が充分出ていないお店のオーナーなどは、入会してどれだけのメリットがあるのか、天秤にかけてはと思うんですね。OSRは国が後ろについてるわけやから、どんどん利用させてもらえばいいんじゃないかと思えます。例えば、お役所の人や専門家をお願いして、講演会や勉強会などを開催するとか：勉強をしたいという若い人は多いと思うし、インターネットの時代ですけど、そこにはない貴重な情報や知識が得られるとなれば、特異性を感じて入会してくれる人も増えるんじゃないですか？ 会員さんに対して具体的なメリットをもっと考え

てあげないと、入会の促進や後継者の問題はなかなか解決できないと思います。もちろん、いい人たちの集まりということも魅力ですけど、そのことは会員にならないと分からないことですからね(笑)。

深沢副理事長

曾根崎料飲事業組合の特徴は、仲良し組合です(笑)。会合に集まって来たたら、情報交換やお互いに助け合ったりできて楽しいですね。大西副理事長がおっしゃるように、OSRも徐々に変わっていかないといいなと思います。もつと、若い人にまかしていくことが大事だし、新しい知恵も必要になってくると思います。そのための工夫もしていかなくちゃいけない。

大西副理事長

現役の役員さんは年いった人が多いですけど、この人たちは生涯現役でいてもらわんとあかんと思うてます。年いって引退したら、きつと会合にも出て来んようになると思うし：だから、今の役員さんはこのままで、新しい人をどんどん役員に起用すればいいと思います。引退するのは亡くなったとき(笑)。

福長理事長

私が、2000(平成12)年、理事長に就

山名副理事長

大変なお仕事ですけれど、いろんな人とお話ししたりお付き合いできるわけですから、やりがいのあることだと思えます。これからの組合をよくしていくためにも是非実現して欲しいですね。

司会織田

福長理事長、最後になりますが、今後の抱負をお聞かせください。

福長理事長

みんながしっかりと、法律重視で商売しているから国にも認められているということがあります。それに、職業安定所では我々の業界のバーテンダーや調理師というのは扱えない。そこで、我々の組織が指導をしたり、国にも貢献しています。今後も、国や社会のルールを守りながら、これに努めていくつもりですし、わが業界は健全に発展していかないといいなと考えています。会員の皆さんに「OSRに入会してよかったー」と思っただけのよう、頑張っしていきたいと思っっています。

司会織田

今日はみなさん、お忙しいところありがとうございました。



東司丘興一副理事長

うちの支部(北新地社交料飲協会)の場合は、圧倒的に女性が多いので、役員に女性は多いですね。大事なメンバーですし、大きな戦力になっていただいています。

東司丘副理事長

『辞める』ということはいわないで欲しい』とお願いしたんです。何故なら、『辞める』と聞くと、人はその日を指折り数えてしまうんです。そうすると、皆、現在のこと集中できなくなるんですね。それは困ると。

大西副理事長

それともうひとつ、提案させてもらってもよろしいですか？ OSRの会員さんは女性を中心になっています。そこで是非、女性の副理事長さんを増員して欲しいなと思っています。

東司丘副理事長

うちの支部(北新地社交料飲協会)の場合は、圧倒的に女性が多いので、役員に女性は多いですね。大事なメンバーですし、大きな戦力になっていただいています。



任したとき、「2年間は勉強せなあかん」と思いながら、走り回ってましたけど、3年目からは辞める準備を始めました(笑)。が、あつという間に時間が過ぎて今にいたつてます。後継者の問題はここだけの話ではないと思います。ただ、若いというのは心の問題でもあります。若くても古い考えの人もいらつしやるし、その逆もあります。全国社交飲食業生活衛生同業組合連合会の前々会長の肥田木克亮さんが、「私はどうせ辞める身なので」と会合のとき必ずおっしゃってた

